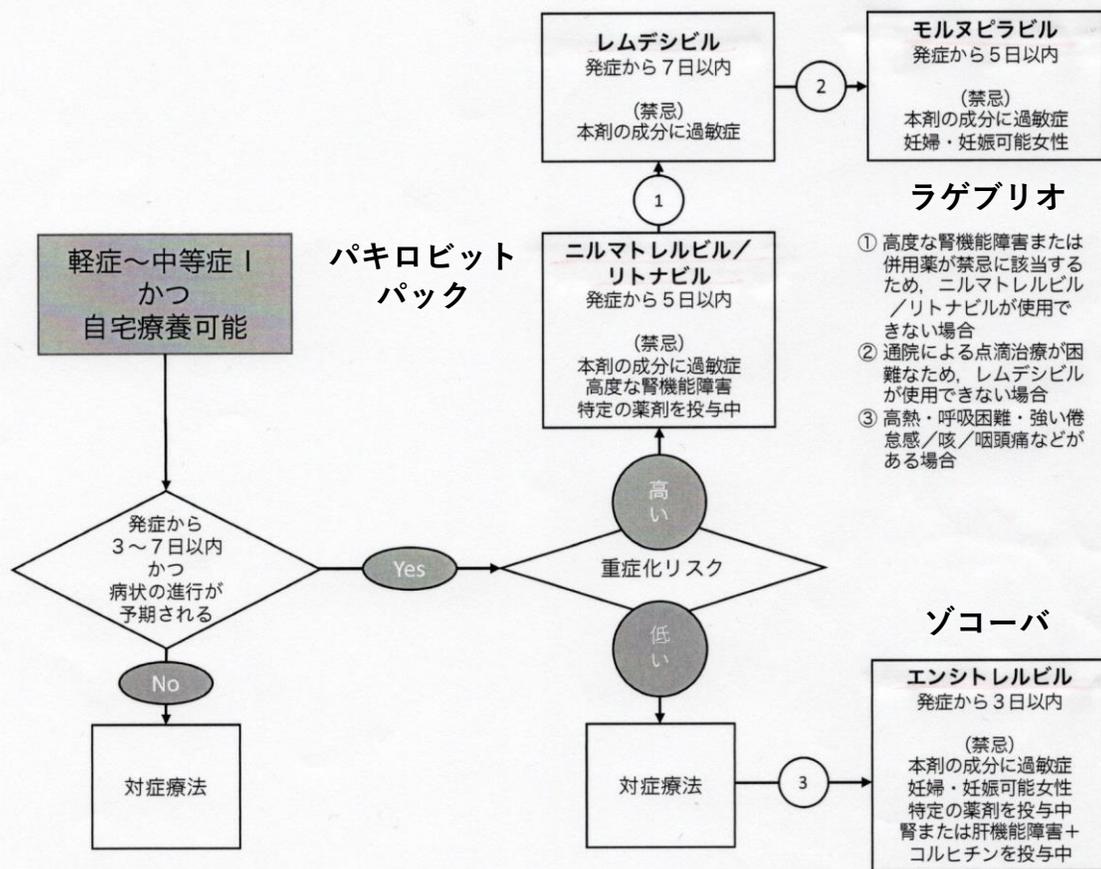


「新型コロナウイルス治療薬」 の公費負担延長を！

東京都医師会理事 鳥居 明

新型コロナウイルス感染症診療の手引き第10.0版

成人の外来診療における抗ウイルス薬の選択



〈参考〉・ NIH. COVID-19 treatment guidelines, 21 July 2023.
 ・ WHO. Therapeutics and COVID-19: living guideline, 13 Jan 2023.
 ・ 日本感染症学会. COVID-19 に対する薬物治療の考え方 第 15.1 版, 14 Feb 2023.

5月8日から新型コロナ5類移行後の変更点: 現行

◇5月8日以降

○季節性インフルエンザなどと同様に、**医療費等について健康保険が適用され1割から3割は自己負担**いただくことが基本となります。急激な負担の増加が生じないよう、入院・外来の医療費の自己負担分に係る一定の公費支援を期限を区切って継続します。

▼抗原検査（初診）の場合目安

窓口負担 3割 2,271円程度 / 窓口負担 1割 757円程度

▼PCR検査（初診）の場合目安

窓口負担 3割 3,489円程度 / 窓口負担 1割 1,163円程度

*一方で、重症化リスクが高い人が多い医療機関や高齢者施設、障害者施設で感染者が出た場合に、周囲の人への検査や職員への集中的検査を都道府県等が行う場合は、「行政検査」として無料で行われる。

5月8日から新型コロナ5類移行後の変更点: 現行

▼外来診療の窓口負担目安

(3割負担の目安)

解熱剤・コロナ治療薬（ラゲブリオ）を処方（検査料を含む）→4,170円程度

解熱剤・インフル治療薬（タミフル）を処方（検査料を含む）→4,450円程度

(1割負担の目安)

解熱剤・コロナ治療薬（ラゲブリオ）を処方（検査料を含む）→最大1,390円

解熱剤・インフル治療薬（タミフル）を処方（検査料を含む）→最大1,480円

* 高額なコロナ治療薬の費用については、夏の感染拡大も想定し、9月末まで引き続き公費で負担されます。

10月1日から厚生労働省調整案

◇10月1日以降

窓口負担の割合に応じて段階的に上限を設ける方向

急激な負担増とならないように配慮、上回った分は公費で支援

他の5類感染症との公平性も踏まえて判断

3割負担：最大9,000円

2割負担：最大6,000円

1割負担：最大3,000円

ラゲブリオ：94,312円

パキロビッドパック600：99,025円

ゾコーバ：51,851円

服薬意向調査と日本の現状

◇患者意向調査

(患者の薬剤負担と服薬意向との関連性を約1万人を対象にオンライン調査)

服薬意向 (非常に服薬したい+服薬したい)

窓口負担0円 : 90%以上

窓口負担10,000円以上 : 約10%

窓口負担30,000円 : 約5%以下

<日本の現状>

新型コロナ感染者数の再増加

免疫保有率 (抗体保有率) 諸外国に比し低値

新たな変異株の出現

インフル等他の感染症の増加

(新時代戦略研究所資料より)

経口新型コロナウイルス治療薬への期待

◇経口新型コロナウイルス治療薬の期待される効果

死亡者数の減少

重症化予防

入院移行への抑制

症状の早期改善

ウイルス量の早期減少

感染蔓延の抑制

後遺症の発症抑制

新型コロナウイルス治療薬の全額公費負担延長を提言！

少なくとも来年の3月まで（秋～冬の感染症増加時期が過ぎるまで）